

佳作

## あつてはならない感動

山口県 山口県立徳山高等学校二年 嶋田 侑里子

私は、最近あることに物凄い感動を覚えた。しかしそれは、何かを成し遂げた達成感や、泣ける映画を見ることなどによって得られる感動などは遠くかけ離れている。つまり、「あつてはならない感動」なのである。

その「あつてはならない感動」と出会ったのは、何気のない日常生活の中だった。ある日、電車の中で本を読んでいると、登場人物が誰かに向かって口を使ってジェスチャーをするというシーンがあった。そのシーンを讀んだとき、私の頭の中に一つの疑問がよぎった。それは、「どうしてマスクをつけているのに、わざわざ口の動きで何かを伝えようとするのだろう」というものだった。そう不思議に思った直後、鳥肌が全身に立った。そう、私は無意識にその登場人物がマスクをつけていると思ったのだ。つまり、現実の中で起きている新型コロナウイルスによるマスク着用が、本の中でも当たり前になっていると思いつていると思いついていたのだ。そのことに気付いた瞬間、いかに今の社会の状況が自分の生活に影響しているか理

か。では、このような「あつてはならない感動」が起きないようにするには、具体的にどのようなことをすればよいのだろうか。

まずはじめに大事なことは、先入観をもたないようにすることだ。一番最初に起きた「あつてはならない感動」の原因は、この時代に生きる人々は誰でもマスクをつけていると思っていた自分の勝手な想像だということが分かった。だから、何か物事に対して考えるときは、まずは何も考えずに自分の主観を捨てて考えることが、「あつてはならない感動」を引き起こさないための初めの第一歩だと考えた。

その次に大事なことは、感動しないことだ。今言ったことに対して、「何を言っているんだ」と思う人がいるのかもしれない。しかし、よくよく考えると、二番目の「あつてはならない感動」が起きた原因は、本当はしてはいけないことに対して感動してしまったことなのではないだろうか。もしあのとき、クラスのみんなが列に並んだとき、感動をするのではなく、列の順番に何か違和感や疑問を感じることでできていれば、本当なら、あの「あつてはならない感動」は絶対に起きなかったのではないだろうか。

以上の私が考えた「あつてはならない感動」が生まれた原因を振り返って今気付いたことは、結局原因は自身自身にあったということだ。確かに、自分の感情は自分

解した。

他にも、「あつてはならない感動」と出会ったことがある。中学校のとき、先生からみんなに本のしおりが配られて、「好きな色を取っていいよ」と先生が言っしおりに選ぶというシーンがあった。クラスで割と目立つ女子などは、「おそろいの色にしようよ」などと言い合っていた。そして、皆がいつせいにしおりを選ぶとき、私は不覚にも、感動してしまったのだ。それは、しおりを取るために並んだ列が、あまりにも自然に、先頭が割と目立つ女子、そして最後尾によく登校中や昼休みも一人でいる女子という列になっている光景を見たことによる「あつてはならない感動」だった。今、なぜあのとき自分はその光景を見て感動したのだろうかと考えると、おそらく、一人一人が学級の中での自分の立ち位置を理解していることへの感動だろうと思う。しかしその感動も、前の文で書いた現実での決して良いとは言えない状況が物語の中にも影響してしまっていることと同様に、本来の感動とは全くの別物なのだ。本当は、学校内、ましてや学級内に格差などあつてはならないのだ。しかし、そんなことは言いつつも、実際はその人の性格や性別に対して、「みんなに平等に接することが大切」という決まりを守ることはそう簡単にできるものではない。そういうことが現実起きてしまっているせいで、このような「あつてはならない感動」が生まれるのではないだろう

で決めているのであつて、他人が自分の感情を動かせるのは一部だと思う。つまり、自分がこれを「あつてはならない感動」と思うか思わないかで、物の見方は変わるのではないだろうか。

以上のことをふまえて、これから何か物事に対して自分の感情を把握し、コントロールする力を身につけて、「あつてはならない感動」を起こさないようにしたい。